CAGLIERO 11
カリエロ

183 2024年 3月

サレジオ会宣教ニュース

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

友人の皆さん、

無原罪の聖マリア会（SMI）という通称で知られている私たちの修道会「無原罪の扶助者聖マリアのカテキスタ姉妹会」は、1948年12月12日、サレジオ会員ルイ・ララヴォワール・モロー司教によって、インドの西ベンガル、クリシュナガルで創立されました。修道会の目的は、家庭訪問と村での使徒職を通しての福音宣教とカテケージスです。

私たちのモットーは、「神を愛し、神を愛するよう人々を助ける」で、霊的カリスマは、幼きイエスの聖テレジアの、霊的幼な子の小さな道による、イエスの「アッバ体験」です。

創立者は、すべての人をキリストのもとへ連れて行く手段として、特徴的な徳である「笑顔の使徒職」を生き、これを私たちに遺しました。私たちは生活とミッションにおいて、聖ヨハネ・ボスコの予防教育法の理念を踏襲しています。

「カリエロ11」の読者の皆さんのご多幸をお祈りします。

Sr Jane Nadackal

■ **無原罪の聖マリア会総長 シスター・ジェーン・ナダッカル, SMI**

ヨーロッパのサレジオの未来は？

今日、このように問いかけることは、まるで普通のことのように思われるかもしれません：「ヨーロッパでサレジオの生き方に未来はあるのか？」私はここでサレジオ家族のすべてのグループを含めたく、広い意味で「サレジオ」と言っています。私たちは広範な世俗主義の空気に囲まれ、宗教はますます個人の選択、私的な領域に閉じ込められるようになっています；私たちは召命の危機のただ中にあります。それは奉献生活の召命の危機であり、また信徒キリスト者として生きる召命の危機でもあります。**私たちはどこへ向かっているのでしょうか？**

個人的な体験をもとに、私は次のように言いたいと思います。**未来に向けて光がきらめいている**のが見えると。まず、神からゆだねられた使命のために奉献生活者と共に責任を担う男性、女性の信徒の数は、スペイン、北ベルギー、イタリア、英国で（ここに挙げるのは一部の例です）増えています。その多くはすでにサレジオ家族のメンバーで、そのほかの人たちは**「ドン・ボスコの友」**と呼ぶことのできる人たちです。聖ヨハネ・ボスコのカリスマと霊性は多くの人の心をひきつけ、最も貧しい子ども、思春期の若者、青年に仕えるよう、多くの人を触発します。青少年司牧、召命司牧のため、サレジオ会とサレジアン・シスターズの間ですばらしい心躍るような協力の取り組みが、特に管区レベルで見られます。一人ひとりに合わせた同伴の深い体験を通して、献身する道を選択しようとする若者を助けています。その選択は、社会的、政治的な領域にも及びます。

そして、真剣で熱意にあふれた若い兄弟会員、祈りの人、世話をゆだねられた若者たちの傍らで、また遠く離れている若者たちを、創意工夫をもって探し求めながら、**「共に在る秘跡」**を深く信じる兄弟たちと、私は出会います。その中でも、プロジェクト・ヨーロッパに参加する多くの若いサレジオ会宣教師の、勇気を与えてくれる存在を強調したいと思います。このプロジェクトは、サレジオ会の歴史において最も複雑な宣教の取り組みの一つです。ヨーロッパ各地の管区で働くこの宣教師たちの存在は、心が冷たく、教会に対し冷ややかになっているこのヨーロッパで、サレジオの霊性を再び燃え立たせたいという願いを明確にしています。そこには、サレジオの奉献生活への地元の召命を再び活気づけるという展望も含まれます。ですから宣教師たちは、穴埋めではなく、成長と召命の熱意を鼓舞する存在なのです。

ヨーロッパでサレジオに未来はあるのか？　まだまだ上り坂の続く未来ですが、豊かないのちと喜びを、確実に見通せるのです。

■ **特任視察師　ジャンニ・ロランディ神父, SDB**

振り返りと分かち合いのために

■ **私が知っているサレジオ会、サレジオ家族の未来に向けて、光はどこできらめいているだろうか？**

■ **どうすれば、自分のいる場で「共に在る秘跡」を生きることができるだろうか？**

人々と共に在る
ウクライナのサレジオ会

ヴォロディミール、戦争が続くウクライナのサレジオ会の現状をどのように見ていますか？　また、若者のために何か行うことは可能ですか？

ウクライナの生活はとても大変です。毎日警報が鳴り、ミサイルが飛んでくるので、走って避難しなければなりません。私たちサレジオ会は、特に若者、貧しい人、難民と共に在ろうとしています。司祭たちは戦闘地域の近くまで出かけ、貧しい人々に食糧や医薬品を届けています。前線で戦う若い兵士に寄り添い、必要とされる精神的な支えを提供しています。困難な状況にもかかわらず、私たちは学校やスポーツ活動、オラトリオや小教区の運営を続けています。もちろん、安全に最大限注意を払っています。

さまざまな国にいるウクライナ人にサレジオ会が差しのべている助けについて、どう思いますか？

ウクライナのサレジオ会は、国外に避難した同胞を助けることができません。男性なので、兵役の義務があり国を出ることができないのです。世界中のサレジオ会がウクライナ人を大いに助けてくれていることを感謝しています。住まいを提供し、食糧を与え、できるかぎりさまざまな方法で助けてくれています。

ウクライナの状況を体験する中で、何か肯定的なことはありますか？

ウクライナの私たちの体験で肯定的なことは、人々が一つになっていることです。互いに助け合い、困っている人がいれば敏感に気づきます。私たちは状況に適応してきたと言えると思います。戦争が始まってからいちばん困難な最初の数か月を乗り越え、何とか少しずつ、戦争が続いているにもかかわらず、「ふつうの」生活を再び始めています。

ヴォロディミール・バサラブ, SDB

リヴィウ生まれ、32歳です。2人の姉妹（双子のオーラと姉のナタリア）、4人の甥がいます。

2014年にウクライナのウィンニキーで1年、その後、**スロバキア**のコシツェで1年半、修練準備期を過ごしました。スロバキアにとどまって養成を続け、修練期をポプラドで、ポスト・ノビスをジーリナで過ごしました。

実地課程をウィンニキーで1年、カステッロ・ディ・ゴデゴとヴァルドッコで1年、修めました。現在はトリノの**クロチェッタ**で神学を学んでいて、2年目になります。

ウクライナのサレジオ会

ウクライナには、ミカイロ・チャバン神父を長上とするウクライナ準管区UKR（ビザンチン典礼）、あるいはクラクフに本部を置くポーランド南管区PLS（ローマ典礼）に所属する、約40名のサレジオ会員がいます。

フォーラム

「ドン・ボスコの子ら」がいるのは次の場所です：
- ビブルカ（PLS）- 小教区
- ドニプロ（UKR）- 人道救援活動と大学での活動
- リヴィウ（UKR）-（下記のとおり）
- キーウ（UKR）- 大学生のための活動
- ノヴォシルカ（UKR）- 小教区と若者の霊性センター
- オデッサ（PLS）- 小教区と小学校
- コロシティシウ（PLS）- 小教区とユースセンター
- ペレミシュリアヌイ（PLS）- 小教区とオラトリオ

リヴィウのサレジオ会：
- リヴィウ ポクロヴァ - 準管区本部、小教区、オラトリオ、学校、カテキズムのグループ、学生寮
- リヴィウ ウィンニキー - 小教区教会がない小さな町、アニメーターの活動、ウクライナ東部からの約40人の移住者
- リヴィウ フィリッポ・リナルディ - 困難な状況にある子ども約60人が暮らす家、200人の生徒が学ぶ職業訓練センター、300人の子どもが参加するサッカークラブ
- リヴィウ マリアポリ - 戦禍を逃れてきた1000人の避難者のための仮設集合住宅から成る「マリアの町」。

3月 サレジオ宣教の祈りの意向

新たな時代の殉教者のために

いのちの危険を冒しながら他者のために生きるウクライナの若者とサレジオ会員のために。

世界各地でいのちの危険を冒して福音を生きる人々のために祈りましょう。
その勇気と宣教の熱意が教会の中に行き渡りますように。　｜教皇フランシスコの祈りの意向｜

ウクライナのために